

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

働くパパママ川柳大賞の句「10連休 預け先無し 金も無し」めったに経験することがない大型連休。レジャー産業の現場で

は、経済効果を期待した反面、カレンダーを眺めながら、財布と「にらめっこ」の子育て奮闘中の家族や、春の農作業に追われる農家、パート勤務の労働者からは大きく減る給料に、ため息が聞こえてきた。

時代も「平成」から「令和」へ、この瞬間を、長崎新聞のコラム「水や空気」さんは、いま私たちは地平線の上にいると表現した。地の果てと、空との境目を目指しても、常にその線は、あなたに見える。誰もが地平線にたどり着けないけれど、誰もが地平線に立つ事ができる。にわか

に劇的な変化を期待せず、きょうと言っ日を、変わりがなく、ただ穏やかにと。連休初日、大町市内で全日本壮年ソフトボール長野県大会が開催された。県下から28

チームが参加、全国大会を目指して熱戦が繰り広げられた。しかし大会本番の連休初日は、小雪が舞う厳しい寒さ。雪と桜の花びらと一緒に舞う異常気象。上諏訪出身の作家・新田次郎はエッセー「白い花が好きだ」で、長い春の眠りから目覚めたように葉芽や花の芽を膨らませる情景を「コフシ」で表現した。いち早く里に咲き、古くは農作業を始める層で作況を占うにも使われ「花が上向き

咲くとも言われる竹の花が横須賀市内で開花した、との情報や、晩春の季語「桜蝦」、駿河湾のごく限られた水域の特産物だが、昨春の記録的不漁を受けて、秋漁を休漁して資源回復を試みたが、昨しまっ初めての体験をした。

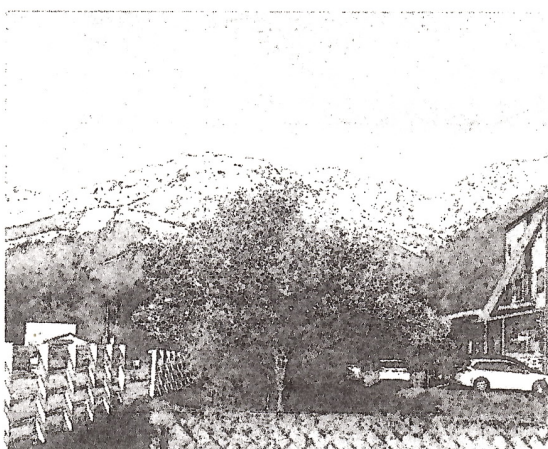
穏やかな春の訪れである二十四節気の小寒から穀雨までの間の各気の花の開くのを知らせる風である二十四番花信風。何とも趣のある呼び名だ。変わりやすい春の天気だが、今後安定して日差しが強まり、農産物や山菜などの恵みが楽しみだ。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

平成から令和に時代が替わっても、穏やかな日々の繰り返しを願うばかりだ

チームが参加、全国大会を目指して熱戦が繰り広げられた。しかし大会本番の連休初日は、小雪が舞う厳しい寒さ。雪と桜の花びらと一緒に舞う異常気象。上諏訪出身の作家・新田次郎はエッセー「白い花が好きだ」で、長い春の眠りから目覚めたように葉芽や花の芽を膨らませる情景を「コフシ」で表現した。いち早く里に咲き、古くは農作業を始める層で作況を占うにも使われ「花が上向き

なら豊作、下向きなら凶作」と言い伝わっている。今春は、下向きが多いなど見えたのは、気のせいなのだろうか。4月中旬には、凶作の前触れとの言い伝えがある100年に1度の苗が、凍みて腐って

年に続き群れの少ない状態が続き、休漁を繰り返す事態。不漁原因は、例年より低い海水温が疑われた。我家のニンニク栽培も、春先の異常な寒さと凍結の繰り返しで、ニンニクの苗が、凍みて腐って



連休2日目、雪化粧し直した山々と満開の桜が何を示唆しているのか不安になる